

平成 24 年度愛媛・高知交流会議 議事録

開催日時：平成 24 年 5 月 21 日（月） 12：55～14：05

開催場所：旧都筑半平別邸〈表の間〉（高知県高岡郡四万十町）

出席者：愛媛県知事 中村 時広

（敬称略） 高知県知事 尾崎 正直

1 開会

（司会（小谷高知県総務部長））

ただ今から、平成 24 年度愛媛・高知交流会議を開催いたします。

本日の会議の進行役を務めさせていただきます、高知県総務部の小谷でございます。どうぞよろしくをお願いいたします。

それでは、開会に当たりまして、今年度の開催県であります高知県知事からご挨拶を申し上げます。

2 開会あいさつ

（尾崎高知県知事）

本日は、平成 24 年度の愛媛・高知交流会議に中村知事様をはじめ愛媛県の皆さま方、本当に遠路はるばる朝早くから高知においでをいただきまして、本当にどうもありがとうございます。また今年度もぜひ愛媛・高知での活発な議論をさせていただきたいと思っております。

近年、本当に愛媛と高知の間の絆の深まる出来事がたくさん出てきていると思っています。特に物理的に距離が縮まることがたくさん出てきておりまして、ご存じのとおり地芳トンネルが開通をいたしました。久万高原町と禰原町、非常に活発な交流が始まっております。さらに先日、三坂道路が開通したことで、また新しく 33 号線同士での沿線での交流が深まろうとしておるところであります。さらに先ほどご覧いただきました 381 号線、こちらの沿線でも多くの皆さまの県境を越えた取り組みの機運が高まり、そして何と言いましても宇和島まで高速道路が延びてきたということ。「えひめ南予いやし博」、この開催とも相まって本当に多くの皆さまがこの四国の西南地域一帯に対する注目度を高めてくださっていると思っております。

防災対策、そしてまた、産業振興の取り組み、さらにはいろいろな環境の取り組みなどなど、それぞれ四国、愛媛県・高知県、共に抱える課題は多いわけでございますけれども、これらの問題に対して、この距離の近さなども生かしていきながら、人的な交流、人々の往来、そしてまた行政同士、政治同士でのしっかりとした連携、これらを通じましてしっかりと諸課題に対応していければと考えておるところです。

共に困難に立ち向かう、若しくは共に振興に向けてタイアップをしていく、スクラムを組んでい

く、こういう取り組みを大いに進めさせていただきたいと思います。そのためのいろいろな話し合いをぜひ今日、させていただきたいと思いますので、短い時間でございますがよろしくお願いいたします。

3 意見交換

(司会)

それでは、愛媛県・高知県に共通する課題や連携・交流などにつきまして、意見交換項目の順番に沿ってフリートーキングでの意見交換をお願いいたします。

なお、以降の進行は、開催県ということで尾崎知事にお願いをいたします。どうぞよろしくお願いいたします。

【南海トラフの巨大地震対策について】

(尾崎高知県知事)

それでは、中村知事さん、よろしくお願いいたします。

まず、第1番目の項目として「南海トラフの巨大地震対策について」お話をさせていただきたいと思います。皆さま方もご存じのように、この3月31日に内閣府が新しい地震の震度および津波の想定を発表いたしました。それを受けまして本県もこの5月10日に新しい想定に基づいてどこまでが浸水をし、それぞれの地域における津波高がどれぐらいになるかということについて県独自の想定を発表させていただいたところです。いろいろと多くの皆さま方の大変な関心と呼んでおるところであり、またご心配をお掛けしておるところでもありますけれども、一体どこまで津波に浸かって、どれだけの高さになるかということについての一定の目安がなければ対策の立てようもないということでこのたび県独自の発表をさせていただきました。

内閣府の説明にもありますように今回国が発表をいたしました想定は、あくまでも最悪の条件下で最悪のことが積み重なったケースであるということでもあります。必ずしも次の南海地震がこのようになるということではないというふうに国のほうもおっしゃっているわけですが、他方で、特に人命を守るための対策、逃げる対策ということについて言えば、こういう最悪のことも起こり得るということを念頭に置いて対策を進めていくということが非常に重要だと考えております。

そういうことで私どもといたしましては、現在、津波避難計画の見直しを何とか今年9月末ぐらいまでに終えたいということで、地域住民の皆さま、それから県庁職員、さらにOBの職員にもご参加を願って、市町村職員の皆さんと一緒に、今、一斉にこの地域の避難計画の見直しを行っています。今後、避難路、避難場所づくりを行っていく。さらには本当に新しい発想で避難施設の整備もしなければならんということで、津波避難シェルターの技術開発も実施しているところがございます。また、併せまして、他方、やはり減災という発想に立っても一定のハード整備がこれから必要な部分も出てくると思っています。少なくとも100年、200年に一度の津波、こういうものに対して、相当程度減災効果を持つようなハード整備などというのも、今後、全国的にも本県においても求められる。そのように考えておるところです。

こういう中で、特に2点、愛媛県と高知県の間でぜひ一緒にさせていただきたいと思っておりますのが、国全体として南海トラフ巨大地震対策、こちらに当たっていくという体制をつくり出していくための共同運動といいますか、そういう点であります。今も9県知事会議で一緒に取り組みを進めさせていただいておるところでございますが、ぜひ、国策の中心にこの南海トラフ巨大地震対策というのを据えていただく、そういう南海地震対策を進めていける体制をつくり出していくためにも、南海トラフ超巨大地震対策特別措置法の制定を行って、それに伴ってさまざまな対策の枠組みを創設する、財政的支援制度の創設、そして大綱・要領の策定、そういうことをしていくということが重要じゃないかと思っております。ぜひ今後とも、こういう特別法の制定に向けて共同歩調を取らせていただきたい。これが、第1点であります。

そして、第2点でありますけれども、避難者・被災者の広域的な支援の体制についてということです。従前から申し上げておりますが、今、全国的な規模でもいろんな広域の支援体制の構築に向けての議論が行われておりますが、四国の中での協力体制、そして中四国での広域体制、西日本での広域的な支援体制、全国での広域的な支援体制というふうにも何重にも同心円状の枠組みというのを持っておくということが重要じゃないかと思っております。特に避難をし合うということからいけば、できるだけ近い所に避難をしたいというのが住民の皆さま方の心理ではないかと思っております。そういう意味では、四国の中でお互いに助け合っていけるような体制づくりというものを具体的に進めていくということが重要ではないかと思っております。ぜひこの点についても共に歩みを進めさせていただければと思っておりますので、よろしく願いをいたします。

(中村愛媛県知事)

全く同感でございます。今年、「南海トラフの巨大地震による震度分布・津波高」が国から発表されたときは、あまりにも突然出てきましたんで、最大津波の各市町ごとの数字が一気に国民の前に明らかにされ、その数字の大きさに非常に驚きを禁じ得なかったというのが率直な感想です。国は「これでもかという最悪のものが積み重なったときに考えられる数字」というふうなことを言うんですけども、出てしまったらもうそんな言い訳は通用しないわけで、多くの人たちはそれをベースにして物事を考えていくというように気持ちの変化が起こっているということは、国には理解してもらわなければいけないなどと思っております。であるが故に、尾崎知事からご提案のあった法律の制定も含め、国策としての対応というものは必須条件になってくるだろうということで、ぜひその運動に向かって力を合わすことができたかと思っております。

なお、9県知事会議については、当初の段階からとりわけ尾崎知事が非常に声を大にして連携の必要性を叫び続けてこられ、また、この会議においては中心的に動いていただいておりますので、これからもそのリーダーシップを心から期待させていただき、われわれも一緒になって対応に臨んでいきたいと思っております。

今ご指摘のあった、県境を越えた、広域も含めてですけども相互協力体制。愛媛県の場合も愛南町や宇和島市、八幡浜市辺りまで相当大きな津波被害が想定されていますから、これはもちろん、県内はもとより隣県で、何かあったとき、受け入れが可能なきにはこうするという事について事前に話し合いを進めていくというのも大事な視点だと思いますので、今後ともそういった事務局同士の話し合いを積み重ねさせていただきたいと思っております。

愛媛県では、社会資本整備の1つとして、今ご指摘のあったように、まず命を助けるために「逃

げる」ということに力点を置き、本来は市町の事業にはなるんですけども、南予地域で、緊急の避難階段の整備を一気にやっ払いこうと思って県の補助制度を創出しました。そしてまた、九州への関連で言うと、三崎港から九州へのルートがありますけど、こちらは減災ということで港湾の整備強化、こうしたものを重点に行っています。ご指摘のあったように、抜本的な対策というのは一地方レベルができる話ではありませんので、先ほどの繰り返しになりますけども、やはり国が責任をしっかりと果たすべきであるという働き掛けが今まで以上に重要になってきていると思いますので、全力を尽くしていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(尾崎高知県知事)

また、よろしくお願いいたします。

【「四国8の字ネットワーク」の早期整備と大規模地震発生時の支援ルートの確保について】

(尾崎高知県知事)

それでは、次は「四国8の字ネットワーク」の早期整備と大規模地震発生時の支援ルートの確保について」という項目に移らせていただきたいと思います。

こちらはまず中村知事さんの方から。

(中村愛媛県知事)

8の字ネットワーク、細かいことは抜きにして、四国の高速道路は全国ブロック単位での比較を見ても明らかに遅れている状況にあるというのは、もう等しく皆さんが共有している現実だろうと思います。

しかしながら、3.11以降、高速道路の意味合いというものが大きく変わったわけでありまして。これまでのように、単に便宜の向上であるとか、物流あるいは人の移動の増進につながるという意味合いから、災害の避難、あるいは災害時における輸送ルートの重要な拠点、こういったような意味合いが出てきましたので、全くこれまでとは違う位置付けであるということを国はしっかりと受け止めていただく必要があると思います。

ご案内のとおり、愛媛側が宇和島市まで開通し、愛南町に至る津島道路も計画決定は成されてますけども、高知までつながってこそ初めてこの道路の意味合いが出てくるということでもありますから、もう本当に尾崎知事と力を合わせて、意味合いが変わったことを受けて一層の事業の推進に向かって全力を尽くしていく必要があると思っておりますので、これも先ほどと同じようにぜひ力を合わせてやっていきたいと思っています。

(尾崎高知県知事)

ありがとうございます。

この8の字ネットワークの早期整備、「高知までつながってこそ初めて」と言っていましたけども、その点について本当にもう強く同感でございます。

今回の津波想定を踏まえましてもやはり何といたってもまず早期に啓開、復旧できるそういう道と

というのが絶対的に必要だと。復旧・復興のメインの手段になってくることはもう必須でありますから、そういうものをしっかりつくり上げていくということが非常に重要だろうと思います。また、場合によっては避難路、避難場所としての機能も果たすようなことも考慮しての道づくり、インフラづくり、これが非常に重要なのかなと思っています。

本当に今までのいわゆる「命の道」そして「産業の道」としての8の字ネットワークの重要性に加えて、超大規模災害に対する備えとしての重要性というのも新たに出てきてるんだと思っているところでございまして、ぜひ、8の字ネットワークの整備、特に高知と愛媛をつなげるということについて、共に取り組みを進めさせていただきたいと思っています。

それと、一部個別のルートになりますが、宿毛市と愛南町さんで5月15日にも協議が行われたと伺っておりますけれども、宿毛市と愛南町の間をこれからどうしていくのかということについてでございます。いろいろこれからまたいろんな観点からの協議を進めていかなければならないと思いますが、われわれ高知県といたしましては、できれば防災拠点港となっております宿毛新港とうまく連携できるようなルート、かつ、いざ津波が起きたときに十分な避難場所としての機能も発揮するような形の一石二鳥、三鳥となるようなルート設定が望ましいのではないかと考えておるところであります。

こちらの点について、今、宿毛市と愛南町がお互いに今後ルートをどうするかということについての協議を進めておられると伺っています。地元が「こういうふうに行きたい」というふうな機運が高まってきた段階で、ぜひ高知県と愛媛県の間で統一行動が取れるようになればなと思っておりますので、こちらの点についてもよろしくお願ひしたいと思っております。

あともう1点、8の字ネットワークに加えて、いわゆる大規模地震発生時の支援ルートとして、「くしの歯作戦」で今回非常に有名になりましたけれども、そのくしの歯の部分であります。国道33号、194号、197号、そして381号などの路線についても早期の啓開を果たして、全体としての復旧・復興対策を確保するという観点も、また命の道、産業の道という点に加えて非常に重要なことになってきているのではないかと考えておまして、こちらの落石防災対策、事前通行規制区間の解消とかそういう問題についても共同して国に対して働き掛けていけるようになればと思います。また、そちらもよろしくお願ひしたいと思っております。

(中村愛媛県知事)

宿毛の件ですけれども、宿毛市と愛南町で話し合いをされていると思います。地図で見ても今までのルートは山側でどちらかというと人口が少ないところ。今ご指摘があったように海側の方に行くことによって、当然避難路としての活用の重要性が全く変わってくると思います。もちろん一方で、実現性、工事費の問題とかあるんでしょうけれども、何よりも今言った防災、それから宿毛の活性化等も含めたことで地元が盛り上がったなら、当然そっちの方に向けて努力をしていかなきゃいけないのかなと思っています。

(尾崎高知県知事)

ありがとうございます。

また地元ともお互いコミュニケーションさせていただきながら話を進めさせていただきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

【原子力発電所における安全対策について】

(尾崎高知県知事)

それでは、「原子力発電所における安全対策について」に移ってよろしゅうございますでしょうか。それでは、どうぞよろしくお願ひいたします。

(中村愛媛県知事)

原子力の問題については、3.11以降、いろんな意見が国民の間に湧き起こっているところであり、私どもは原発立地県ということで他の原発立地県のことは分かりませんが、愛媛は愛媛の考え方で向き合っていこうという立場を取ってきました。

日本は資源もない、四方が海で囲まれているから海外から電力を購入することもできない、その制約の中でやっていかなければならない宿命を持っているんですが、もちろん原子力発電所は危険なものでありますから、無いというのが理想だと思っています。ただ現実問題、今、自然エネルギーでそれがカバーできるかって考えてみますと、今のこの段階ではそこまでの技術が無いのも事実でありますから、安全というものを徹底的に追究するということが一番。その上でエネルギー問題をどう考えていくかというふうなことで、現実を見ながら進めていく必要があろうかと思っています。

今申し上げた安全ということにこだわった愛媛の立場を少し報告させていただきますと、愛媛県は独自に四国電力という事業者に対し、国とは別途に要求を7つ突き付けさせていただきました。

1つは、身近なところで速やかにハンドリング、オペレーションができるように原子力本部を移転すること。これは既に高松から松山へ移転が完了してしまっていて、それまでは常務取締役が本部長でしたが、現在は本部長は副社長に格上げし、副社長は2人ですから、そのうちの1人が松山に常駐するという体制を取ってもらっています。

2つ目は、国が途中で言ってきた電源対策。全電源喪失した場合に暴走が止められないということになりますので、国が言ってきたのは大型の電源車の常設であったわけですが、これは当たり前のことであって、アディショナルな対応を四電に求めました。四電から来た答えは、伊方発電所のすぐ上に亀浦変電所があって、その変電所から1号機、2号機、3号機に新たに送電線を新たに付設して、別途さらにもう1つアディショナルな電源供給ルートをつくるということでしたので実施に移していただきました。これは既に工事を完了しています。

それから3つ目、これは全く国が言っていないんですけども、揺れ対策。伊方の場合は津波の心配はありません。南海トラフのときでも伊方発電所に押し寄せる津波は最大3メートルという数字の結果が出ているのと同時に、前面海域は水深80メートル、しかも断層なので横ずれが基本で、横ずれの場合は津波は起こりませんので3メートルが今考えられているマックスであります。伊方発電所は海拔10メートル、非常用ディーゼル発電機も海拔10メートルのところに設置されていますので、むしろ揺れが問題だと。国は何も言っていないけども、揺れ対策を始めてくれということで、全ての機器の総点検を行っていただきました。現在、基準値震動570ガルで建設されますけれども、設定値を2倍に引き上げ、おおむね1,000ガル以上に足らざる機器については全て補強工事を行うということで、一部工事が既に始まっております。平成27年にこの工事も完了する予定です。

それから、もう1つだけ大きな問題は報告連絡体制であります。他の電力会社は原子力発電所で何かが起こった場合、全て原子力本部、そして本社、そして広報部がプレス発表という仕組みを持っていますけれども、伊方の場合はそうはなっていないで、何か起こった場合はまず真っ先に愛媛県に報告が来る。区分に分けて公表の時期を決めていますけれども、プレス発表も全部愛媛県が行うということで、情報を絶対に隠させないしっかりとした体制を組んでいます。これは9電力会社で愛媛県の四国電力のみがやっている方式で、「愛媛方式」と言っています。このことによって情報の隠ぺいを抑えるということを徹底させています。

他にも3つばかりあるんですが、大所としては4つ、独自の要求を突き付け、全て真摯に対応してもらっています。

一方で、国のほうからは何も言ってきていないので、再稼働という問題については白紙から出られない。大事なことは事業会社の姿勢、国の方針、そしてそれらを受けた地域の意見ということだろうと思っていますので、私の役割としては電力会社の姿勢を引っ張り出すこと、それから国が何か言ってきたときにオープンな形でやりとりをし、その真意を皆さんの前に提示するという、ここに重点を置いて今後も取り組んでいきたいと思っています。

(尾崎高知県知事)

いろいろ教えていただきまして、ありがとうございます。

この伊方の問題について言えば、これからまた再稼働の是非をめぐってのいろんな議論が行われていくことになろうかと思いますが、高知県といたしましても、この問題には非常に大きな関心を持っておるところであります。

何と言いましても、本県はPPA圏に一部の市町村が掛かっているということでありまして。そして万一、伊方で事故が発生すれば、それに伴うPPA圏が多くの水源地帯であるということ、そういうことをよくよく考えないといけません。さらには、全体としてのいろんな農作物に対する風評被害とか、いろんな問題にも広範に影響が及ぶというふうに考えざるを得ないと考えておりまして、伊方でいったん事故が起これば本県もそれはもう大変深刻な影響を受けることになる、そういう思いでいるところでありまして。

でありますので、その伊方の安全対策についてはものすごく大きな関心を持っているところがございます。今後、再稼働についていろいろ議論が行われていく中で、私どもとして、まずは原発立地自治体のご理解、これが大前提ということだというふうに考えておるところでございます。その上でまた本県といたしましても、国とか四国電力さんとか、または愛媛県さんなどからいろいろ教えていただきながら、われわれとしての考えというのもお示しをしていかなければならないのかなというふうに考えているところです。

そういう中で、従前より申し上げておることですが、3点は非常に重視したいというふうに考えております。

まず、何といたっても第1に、国の説明内容が妥当であるか、また、四国電力の追加安全対策を含めた安全性が確保されているか、これがまず第1点ということになります。

そしてもう1点ですが、先ほどの議論とも絡みますが、東海・東南海・南海地震3連動型の南海トラフ巨大地震、これに対する安全性が確保されているだろうかという点。

そして3番目ですが、異常発生時などにおきまして、本県に対する迅速な通報体制の確立がなさ

れていくかどうか、このことなどについて、非常にわれわれとしては重要な条件となるなど考えているところでございます。

われわれとしては、さまざまな取り組みを勉強会などを通じて教えていただいたり、四国電力さんからも教えていただいておりますが、何といたしましては愛媛県さんもさまざまな知見を積み重ねてきておられるところでございまして、この伊方の問題につきましては、ぜひまたコミュニケーションを密にさせていただきながら、今後ともいろいろとわれわれにもご教示いただきたいと、そのように考えております。

ちなみに、PPA圏に一部入っているということ、さらには先ほど申し上げました風評被害などの間接的な影響は、本県の中でも広範囲に及ぶであろうということ、こういうことなどを踏まえまして、われわれは、今後、事故発生時に必要となる対策を行動計画として取りまとめる予定です。併せまして、地域防災計画の修正も行っていくことを決定いたしているところでございます。繰り返しになりますけれども、異常発生時などにおきます本県に対する迅速な通報連絡体制を確立していただくということが非常に重要になってきます。

また、この点などについても今後、四国電力さんともお話しさせていただきたいと思いますが、ぜひご理解のほどをよろしく願いをいたします。

(中村愛媛県知事)

はい、分かりました。

1つだけ。実は揺れで一番懸念しているのはむしろ中央構造線の方だと思っております。最近分かったんですけども、南海トラフ地震では、津波は今言ったように3メートル。揺れの方の数字はあまり表面に出ていないんですけど、200ガル程度ということをご報告させていただきます。

(尾崎高知県知事)

挙動がどうなるかということですね。

(中村愛媛県知事)

そうですね。

(尾崎高知県知事)

それの中での確認ということが必要になろうかと思っておりますね。

本当にいろいろ緊密に連絡を取らせていただいて、われわれもいろいろ教えていただきたいので、よろしく願いいたします。

(中村愛媛県知事)

こちらこそお願いします。

(尾崎高知県知事)

この点、われわれも、四国電力さんは今回新しい想定が出たことを踏まえていろんな検証をしておられるというふうに理解をしておるところでありますけれども、とにかくこの点も徹底して今後

も検証を続けていただかないといけませんので、ぜひ、これは共に四国電力さんに申し上げさせていただきます。

(中村愛媛県知事)

そうですね。一度ぜひ一緒に伊方へ。

(尾崎高知県知事)

なるほど。そうですね。

(中村愛媛県知事)

現地がどうなっているかということを見ていただいた方が、より一層理解も深まるかなと。もちろん足らざるところはご指摘いただいて。私たちでも気が付かないところがありますので、またよろしくをお願いします。

(尾崎高知県知事)

国に対しましても、安全対策の徹底、そのための手順をしっかりと前に進めていくこと、これをぜひ協調して伝えさせていただきたいと思います。

【JR予土線の利用促進について】

(尾崎高知県知事)

では、次が「JR予土線の利用促進について」ということであります。
先ほどホビートレインにもお乗りいただきましたけれども。

(中村愛媛県知事)

いいですね。

(尾崎高知県知事)

産業振興についての課題に移らせていただいて、こちらについてお先にどうぞお話しくさいます。

(中村愛媛県知事)

今日は、海洋堂さんが立ち上げられた「海洋堂ホビー館四万十」にも行かせていただき、その後ホビートレインに乗らせていただきました。そのユニークな発想、本当にこんなへき地についていうコンセプトが非常に面白かったですし、むしろへき地っていうのはそれだけ自然環境に恵まれているということだろうと思いますが、とりわけそれはそんじょそこらにある自然環境ではなくて、第1級の観光資源である四万十川というものがベースにあるということ。ホビートレインに乗りながら車窓が楽しくてしょうがなかったですね。これはもう本当に高知県にとっての宝だなと思いま

た。さらにこれからもいろんな仕掛けをされるというのを聞いて、まさに伸びしろがあるスポットとして今後の成長が大いに期待できるんじゃないかならうかと思っています。

予土線は、これまでも本県からもトロッコ列車を高知県と一緒に走らせていただいたり、観光としての目玉という点もあるんですが、やはり地元の皆さんにとっては通勤、通学、移動手段として大切な足でありますから、維持存続のために両県が力を合わせて、利用が増えるようにいろんな仕掛けを一緒になってできたらなと思っています。

今、「予土線利用促進対策協議会」も立ち上がっている中で、駅ごとにいろんなイベントの展開も地域で考えているようなので、県の立場でもそういった取り組みをバックアップしていきたいと思っています。特に観光振興ということについて言えば、予土線を活用し、沿線も含めて何かをやるときってというのは、1県で情報発信するより、こうした県境を越えた両県が共同でやったら、当然のことながら情報発信力は2倍になっていきますので、そういったことも予土線の活性化につながっていくものと期待しています。またぜひ一緒にやっていきたいと思っています。

(尾崎高知県知事)

本当、JR予土線、特に輸送密度の少ない路線だと言われてはいますが、他方でポテンシャルは非常に大きいと思うんです。

(中村愛媛県知事)

大きいですよ。

(尾崎高知県知事)

さっきポスターも見ていただきましたけど、全席がグリーン席、まさにその通りの路線なんだなと。生活路線としての重要性はもとより、むしろ生活路線として守っていくためにも観光路線として大いに盛り上げていくことが必要だし、また、できる路線だろうと思っています。

後でまたお話があらうかと思いますが、今、愛媛県さんのほうにおいて、特に南予の観光振興に向けた活発な取り組みを進めておられるところでもありますけれども、そういう取り組みの一環として、地域でぜひ一体感を持たせていただきながらの観光PRっていうのを、共に進めさせていただきたいと思っています。

われわれも「海洋堂ホビー館四万十」さんがオープンをされて、またさっきも見に行っていた新しい「かっぱ館」も7月7日にオープンをします。もう一段、この地域の集客力が高まるんじゃないかという期待があります。

さらにはもう1つ、特にJRさんも「四万十・足摺キャンペーン」を去年やっていただいたんですよ。西南地域に路線を呼び込んでしようという取り組みをしていただきました。地域のそういう観光資源を連携して磨き上げて、その上でJRさんとか、さらに観光・旅行エージェントの皆さんとか、そういう方にしっかりPRして商品にさせていただくと。そういう取り組みを特に西南地域の部分については連携してできる点が多いと思いますので、ぜひ共にやらせていただければなと思いますので、よろしくお願いをいたします。

ひとつ、四万十町長さんから具体的なご提案もあるようで、聞いたら、車両のロングシートの一部をボックスシートに替えましたらもっとお弁当なんか食べられるようになって楽しくなるんじゃない

ないかと。ぜひそういうのももっともっと進められないだろうかというようなご提案をいただいているそうです。利用促進につながる具体策だと思うんですけど、使ってる車両ってのはこの路線だけしか走らないというものではないらしいので。

(中村愛媛県知事)

ああ、そうなんだ。

(尾崎高知県知事)

何か所かいろんな所を交代で動いているので、一斉に改修を何両もしないといけなくなって大変なんだって話も伺いましたけど。そういう点なんかもまた一緒にJRさんにもご協力いただきながらタイアップできればと思っています。ぜひ、本当に共同してやらせていただきたいと思います。

(中村愛媛県知事)

はい、分かりました。

【四国西南地域における観光振興の連携について】

(尾崎高知県知事)

それでは、まさに関連する課題でありますけど、「四国西南地域における観光振興の連携について」、どうぞよろしく願いいたします。

(中村愛媛県知事)

今日は道の駅「四万十とおわ」に行かせていただいて、オリジナル商品の充実度というものが、本当に他の追随を許さないんじゃないかというぐらい。このお茶もそうですし、海苔もそうですし、紅茶は、何茶って言ってましたっけ、和製お茶。

(尾崎高知県知事)

和製の紅茶のもともとの発祥の地なんだそうなんですわ。

(中村愛媛県知事)

ジャムとかゼリーを作られたり、それから新聞紙の紙袋、あのアイデアといい、非常に民間の力が大いに生かされている道の駅だなということをつくづく感じました。

愛媛側もそういう意味では「道の駅みま」とか「虹の森公園まつの」とか、集客が多い拠点もできてきています。何と言っても松山から宇和島まで1時間ちょっと、1時間5分ぐらいで来ますので、そこから松野等々そして高知に至るルートは、松山市という50万人都市の拠点から見ても非常に近くなったわけですよ。こうしたことが南予、四万十のコースも一緒になってということだと魅力が倍増していきますので、愛媛の南予の活性化にもつながるだろうし、連携ということですね。

それからもっと大きな目で見ると、旅行商品の開発のときに、松山空港から入って南予、四万十へ抜けて高知から帰っていくとか。逆のルートもしかりで、こうした広域的な観光商品開発というものが道の整備によって広がりを見せていくのではないかなという期待をあらためて持たせていただきました。特に四万十の知名度はもう抜群ですから、ある意味ではわれわれも一緒になって四万十の魅力というものも付加することによって、お互いの活性化につながるように取り組みを進めていきたいと思います。

この4月から半年間、「えひめ南予いやし博 2012」を展開しています。実は今まで、同じ愛媛県でも、松山から宇和島圏域へはあまり行ってないんですよ。もっと言えば東予の東の方からはほとんど行ってないんです。

(尾崎高知県知事)

そういうもんですかね。

(中村愛媛県知事)

なぜかって言うと、遠いからっていうことで選択肢から外れていたんですよ。ですから、愛媛県内でも宇和島圏域の魅力を知らない人がたくさんいるんです。ましてやそこから先、四万十がすぐだということも、今まで連休とか休みの日の過ごし方の選択肢に入ってなかったんですよ。

ここは伸びしろがものすごくあるんです。このあたりをうまく捉まえて、ぜひ西南地域の活性化につなげていきたいと思っています。

(尾崎高知県知事)

今のその話、驚きましたけれども。逆に言いましたら、余計、「えひめ南予いやし博」、これ効果的ですね。今回、ゴールデンウィークも大変たくさんお客さんが来られたんだと伺いましたけれども。ぜひ、本当に連携をさせていただきたいと思います。

広域連携を可能にするいろんな条件が整ってきつつあるなと思っておりまして。先ほどの宇和島までの高速道路の延伸っていうのも非常に大きいですし、そしてまた、さまざまな、さっき申し上げた地芳トンネルもしかり、それから三坂第2トンネルもしかり、こういうものの整備も大きいです。そしてもう1つ高知側から言わせていただければ、今度、窪川まで高速道路が年明け、来年1月、2月、3月ぐらいには開通できるんじゃないかぐらいに、もう視野に入ってきたところでありまして。こうなりますと本当にそれぞれ、いわゆる松山と高知を結ぶ間の移動が本当にスムーズになってきます。こういう機運を本当に生かしたいなと思います。

実は本県、2年連続して「土佐・龍馬であい博」、そして「志国高知龍馬ふるさと博」という博覧会をやってきて、今年からいわゆる博覧会形式ではないんですが、「リョーマの休日キャンペーン」というのを、今やっておるところです。この「リョーマの休日キャンペーン」なんですが、「昔ローマの休日、今やリョーマの休日」って言って大橋巨泉さんが考えてくださって、それをもとにつくってこのキャンペーンをやってるんですけども。それぞれ「RYOMA」、一文字一文字に意味を込めて、「ロマンの休日」「やすらぎの休日」「おいしい休日」「学びの休日」「アクティブな休日」と。それぞれに伴ったそれぞれの、例えば「アクティブな休日」っていうテーマに基づいた旅行商品を提案していこう、「ロマンの休日」っていうテーマに基づいた旅行商品を提案していこう。例えば龍

馬関係を見ていただくなんていうのは「ロマンの休日」ですね。「おいしい休日」っていうのは高知の食を食べていただこう。それから「学びの休日」っていうと、例えば室戸ジオパークなんかを見ていただこうなんていうのはその典型になってくるんですけども。

この四万十エリアっていうのは、そのRYOMA、全てがあるところで、ロマンもあります、やすらぎもあります、おいしいは当然、そしていろいろ学ぶこともあり、またアクティブな例えばカヌーだとかラフティングだとか、そういうのがあったりもするということでありまして、非常にポテンシャルを感じておるのがこの高幡・幡多地域だなんて思っているんです。

この「リョーマの休日キャンペーン」で、それぞれの地域地域のRYOMAというのを大いに伸ばしていきたいと思っています。そういう意味においてこの「リョーマの休日キャンペーン」っていうのは、ある意味、非常に大きなエリアキャンペーンの東だというふうにもとらえられると思ってまして、特に今年度の後半にかけては幡多と高幡地域のキャンペーンを行っていきたくと考えておるところです。

ぜひ、「えひめ南予いやし博」とのタイアップをさせていただいて、具体的な形で南予から幡多、さらに高幡地域に人が流れて来るという方向、これを今年は具体化していければと思います。ぜひ、連携して取り組みをさせていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

(中村愛媛県知事)

2点だけいいですか。

今日、四万十川を見て、川幅が広いっていうのが愛媛の川との決定的な違いなんですよ。もちろん松野町側にも滑床溪谷という四万十川につながる川があるんですけども、質が違うんだなと。松野町の方は森の中に溪谷があって、今そこで地元の方々が取り組んでいるのは、キャニオニングと言う溪流すべり。これは日本でも有数の場所になっています。松野ではキャニオニングができ、下流へ行くと広々とした四万十川の別の風景が待っているという、この違いこそが接点になり得るんじゃないかなっていうのを感じたのが1点。

それからもう1つ共通項として見出したのが、「コグウェイ四国」もありましたけれども、サイクリング。しまなみ海道で世界を引き付け、そしてさらに四国全体も。いろんなところに素晴らしいサイクリングコースがあるというのがつながっていくと、サイクリストのメッカになるんじゃないかと。「サイクリングパラダイス」ということをちょっと追い掛けていきたいなと思ってます。ここもサイクリングには適したところがいっぱいあるなと思って。そんなに急勾配じゃないですし、今の自転車、性能がいいですから、あれぐらいの勾配は平気で上がっていきますので、サイクリングパラダイス四国、特に西南地域が非常に面白いんじゃないかなというふうに思いました。

(尾崎高知県知事)

「コグウェイ四国」、ぜひあれを毎年の世界に発信するイベントにできればと本当に思います。私も去年走ったんですね。ちょっとここら辺りから十和まで。さっき予土線で見ていただいたコース、沿線を大体、ここらを走ったんです。

(中村愛媛県知事)

何キロぐらいですかね。

(尾崎高知県知事)

どんなだったでしょうね。10キロくらいで走ったんだっただけかな。いやいや、もっと。ごめんなさい、もっと速いか、40何キロだったか。

全然もう快適でしてね。44歳の私でも息切れすることなく、何とか走れるぐらい。もう美しいこの四万十川を横目に見ながら。どちらかといったら平坦、もしくは下り坂で。

(中村愛媛県知事)

ああ、いいですね。

(尾崎高知県知事)

最高の、多くの方に参加いただけるコースなんじゃないかなと。今年も9月30日ぐらいからで予定が入ってるんだっていうふうに伺いましたけど。そういうサイクリングのメッカっていう構想はいいですね。私も大賛成ですね。

(中村愛媛県知事)

そこまで体力があれば、9月に「石鎚山ヒルクライム」という山登り20キロっていうコースがあるんですけど。

(尾崎高知県知事)

ありがとうございます。20キロ、すごいですね。ずっと登るんですか。

(中村愛媛県知事)

それは私、無理だったです。去年3キロでギブアップしましたから。

【東アジアをターゲットにした外商戦略・観光振興の連携について】

(尾崎高知県知事)

次に「東アジアをターゲットにした外商戦略・観光振興の連携について」ということで、私のほうからまずお話をさせていただきたいと思います。

先ほど来、お互いお話が出ておりましたけれども、外国に売り込んでいく。全国もそうです。特に外国にこの四国を売り込んでいく、各県を売り込んでいくといったときに、やっぱり連携していったほうがいわゆる品揃えをしっかりと充実させることができる。さらには、もっと言えば、連携してより魅力の高いものを生み出していくことができる。さらに言えば、それらを通じて知名度がまだ低いということについて、それを補うことができるとそういうことなんだろうと本当につくづく思っておるところです。

そういう点において、製品の売り込み。いわゆるわれわれはよく地産外商だって申し上げているんですけども、それぞれの県でつくったものを外に売り込んでいく取り組み。こういう外商の戦略、さらには観光振興の取り組み、こういうものなどについて、特に東アジアをターゲットとした取り

組みについて、高知県と愛媛県で大いに、また、四国4県で連携して取り組みが進められればなど思っておるところです。

具体的なことで申し上げますと、今、四国4県と4県のジェットロさんをメンバーとして、「四国4県・東アジア輸出振興協議会」をつくらせていただいて、東アジアへの食品の販路開拓に取り組んでいるわけでありますけれども、単独県で取り組むよりも4県が連携して取り組むことで、効果が期待されるものがある。特に食品フェアとか商談会等の事業、これらはやっぱり4県連携の効果が非常に大きいと思いますので、こういう機会をぜひ今後拡大していきたいと思っております。

具体的な点で言わせていただきますと、伊勢丹シンガポールで四国フェアっていうのをやってきたんですが、今、この伊勢丹シンガポールの四国フェア、私もこの間シンガポールに行ったときお伺いさせていただきましたけど、本当に期待されていて、北海道、それから九州に次ぐ全国でも3番目の規模の売り上げになりつつあるそうであります。これらを4県連携で続けていくこと、これをぜひ今後も継続的にやらせていっていただきたいなと思っております。

それと、あともう1つ。われわれの県で、香港そごうさんで今まで本県単独でフェアを開催してきたところでありますけれども、これらも四国4県で行っていくような四国フェアにしていくことができればもう一段注目度を上げることができるんじゃないかと。フェアで注目度を上げて売り上げを取ることで、その中で特に売れた商品について定番化していけるっていうようなこと、これを積み重ねていけばいろんな意味で輸出の大きな取り組みにつながっていけるんじゃないかという期待感があります。ぜひ連携させていただければと思います。

そして観光の件ですが、特にインバウンド対策であります、これからいろいろな形で環境の変化に対応していかないといけなくなるんじゃないかと思っております。

まずその第1点として、これは当たり前のことですが、東アジア地域の成長著しい経済発展、交流機会の拡大、これをぜひ捉まえていきたいということがあります。

それから第2点目。いろいろ変わってくる点として、LCC就航とかチャーター便就航機会の増加とかそういうもの。これらはわれわれにとってチャンスでもありますが、逆に言うと乗り遅れてしまうと非常に他の地域との間で水を開けられてしまうというか、差を開けられてしまうことになりかねない要因だとも捉えられるんだらうというふうに思ってます。ここにやっぱり機敏に対応していかないといけないと思います。

そして他方、3点目。平成26年度には本四架橋料金が大幅に見直される可能性もあるということでありまして。ある意味、これは四国の開国みたいな益をもたらしてくれる可能性もあろうかと思えます。最大限に生かし切りたいものだというふうに思っておるわけでありまして。こういうプラス要素もあればマイナス要素もあるというような状況の中で、いかに他の地域との競争に勝ち抜いていくか、非常に大きな課題だろうと思えます。この東アジア向けのインバウンド対策、こちらについてもぜひ四国4県での連携を一層進めさせていただければなど思っているところでございます、またぜひ両県でも協力してこの取り組みを進めさせていただければと思います。

(中村愛媛県知事)

東アジアというのは、本当にお互い単独で行くよりは力を合わせたほうが。今回、4月にまとめて行って来たんですけども、上海、大連、瀋陽から入って、それから香港、シンガポール、台北、ソウルと一気に集中して行って来ました。やっぱり成長著しいということが1点と、それから、年々

富裕層が急速に拡大している、ということは、いいものであれば高くても買うという購買層が増えているということを実感してきました。そこにアピールするにはやはりインパクトが必要であって、尾崎知事ご提案の連携して品揃えを豊富にしていくということは、重要な戦略ではなかろうかと思っています。

高知県では積極的に海外事務所を、シンガポールと上海に出されているんですか。うちはまだそこまでやってないんですが、ジェトロの上海には職員を送って、それからシンガポールと香港はたまたま地元の金融機関が店を出しているんで、そこを活用させていただきながらやりとりをしています。双方の力を結集することによって、例えば現地のお客さんへの呼びかけなんかも倍になっていくでしょうし、そんなことができたかなと思っています。今、ご指摘のあったフェアの共同参加は、ぜひ前向きに検討させていただきたいと思っています。

それからインバウンドのほうも同じように単体よりもいろんなメニューを揃えることによって魅力度というのがアップしていきますから。高知空港を利用する場合は、高知空港でLCCにしるチャーター便にしるあると思いますが、松山空港には、今、上海便とソウル便がありますのでこういったものもフル活用しながら。今のところ搭乗率70%ぐらいで、上海便は増便になったぐらいなんで順調に推移してます。また、県外の方の利用については補助制度も作っています。それからまた、インバウンドの場合は、例えば松山空港から高知へとかいうようなことも提供できるようになれば面白いんじゃないかと思っています。

(尾崎高知県知事)

本当にそのようになるかどうかは、まだ完全に分かっているわけではありませんが、平成26年度から本四架橋の料金が仮に引き下げられるということになるのだとすれば、ぜひそうしてもらいたいと思いますけれども、そうなってくるとすれば、本当に四国とそれ以外とのいろんな交流についてはものすごいプラスの効果をもたらすと思うんですよ。その時期にぜひ、例えば関西国際空港にLCCで入ってきたお客さんたちを四国に呼び込んでいくような策っていうのは取れないものかなと。どんどんこれからLCCの発展なんかも通じていながら、またビザの問題なんかもあるんでしょう。日本に入ってくる人全体が増えてくるんじゃないかと期待されるんですけど、その流れを呼び込める地域になれるのか、なれないのか。これは非常に大きいと。ぜひ26年度の新しい環境変化を生かして呼び込める地域になりたいと。そのためにも着々と4県で連携して準備を進めていく必要があると思ひまして。26年度に何かを仕掛けていくとしたら、24、25年度と準備をしていかないといけないと思いますので、またぜひ協力して取り組みをよろしくお願ひしたいと思います。

(中村愛媛県知事)

本四架橋は、私がちょっと懸念してるのが、尾崎知事も言われるとおりに料金引き下げに「なるであろう」という段階です。料金引き下げには法改正が必要になってくるんで、与党、野党、四国から選出されている国会議員は全て事の重要性をしっかりと受け止めて、法改正に向かって全力を尽くしていただくということ、各県でプレッシャーを掛けるということが非常に大事だと思いますので、ぜひよろしくお願ひします。

(尾崎高知県知事)

またよろしく申し上げます。

【鳥獣被害防止対策について】

(尾崎高知県知事)

それでは、次に環境・農地保全関係で「鳥獣被害防止対策について」お話をさせていただきたいと思います。シカの連携捕獲について、この交流会議をきっかけとして、平成 23 年度に初めてシカの連携捕獲を実施させていただきました。一斉捕獲とまではなりませんでしたが、通常の場合に比べましてだいぶ捕獲効率も上がったようでありまして、何と言いましてもこれによって共通認識、それに対策をお互い協議できる基礎ができるとかいい効果が出てきているんじゃないかなと思っております。

平成 24 年度におきましても、ぜひ引き続き隣接市町村における連携捕獲を実施したいと思っております。両県の指導によりまして市町村や猟友会との調整の場を積極的に設けていきたいと思っております。今後もこの連携捕獲を継続することで、より一層いろんな具体的対策を取り得るようになるんじゃないかと思うんです。例えば連携捕獲期間中に特に重点日を設けて対応することとか、さらには、無線の周波数の情報を共有することで実を上げるとか、さらに双方の捕獲隊の行動やシカの動きを把握できるようにするために、周波数の情報の共有といったようなさらなる協調体制を構築することをお互い研究するとか、いろんなことが今後考えられるんじゃないかと思っております。まだ両県での連携捕獲というのは緒に就いたばかりですけれども、本当に中山間の暮らしに関わるものすごく深刻な問題であります。ぜひ両県間そしてまた四国の 4 県間において、この鳥獣被害防止対策、連携しての取り組みを今年度も続けさせていただきたいと思っております。こちらもまたよろしくようお願い申し上げたいと思っております。

(中村愛媛県知事)

この件については、去年、尾崎知事からご提案をいただいて非常にいい提案だと。速やかにやりましたということになりました。

(尾崎高知県知事)

ありがとうございました。

(中村愛媛県知事)

関係者からの声を聞いても、まだ初めての取り組みなんだけれども非常にいいという評価の聲が上がっていると聞いています。今お話のあったような情報の共有であるとか、こういったことを進めることによってより一層実績が上がっていくんだろうと思っております。何よりもこの鳥獣被害対策っていうのは市町村という行政の壁、それから猟友会の支部という壁、これが合理性を阻害する要因になっていたと思うんですが、こうしたことは結果が第一でありますから、まさに県レベルでの協調体制というものが新しい道を開いていくんだなということを実感しておりますので、今後と

もなお一層連携を密にしていきたいと思えます。

(尾崎高知県知事)

よろしくお願ひします。ぜひ24年度も継続して実施をできますように、よろしくお願ひします。

(中村愛媛県知事)

はい。

【地球温暖化対策を推進するための森林吸収源の整備について】

(尾崎高知県知事)

それでは最後になりますが、「地球温暖化対策を推進するための森林吸収源の整備について」お話をさせていただきたいと思えます。

一言で言いますと地球温暖化を防止するために森林吸収源の果たす役割というのは非常に大きい。その森林吸収源対策をさまざま実施していくための公共財源をぜひ確保していくべきだという訴えを全国的に共に挙げさせていただきたいと、そういうことでございます。

今、間伐のためのさまざまな取り組みなどについての財源として、森林整備加速化・林業再生基金とか、さらには森林環境保全直接支援事業とか、こういうものによって財源措置がされてきているわけでありましたが、例えば補正予算によって措置された財源であるなど、必ずしも完全に安定した財源とは言えないところであります。そういう中で、地球温暖化対策のための税、これが森林吸収源対策として充てられることとなるということを非常に期待しておったわけでございますけれども、現段階ではこの地球温暖化対策のための税金の使途として、この森林吸収源対策には充てられていないところでございます。ぜひ地球温暖化対策のための税の使途に森林吸収源対策、例えば間伐とかそういうものが充てられるようにということ、両県共同して強く声を挙げていきたいと、そのように考えさせていただいてます。

われわれのほうで試算をした資料があるんで、これをぜひご覧をいただきたいと思うんですが、国のほうにも提案書として持っていった資料なんです。こちらの右のほうをご覧いただきたいと思うんですけども、「原単位での比較」と書いてありますが、1万t-CO₂を削減するために必要な間伐量が年間で496haというふうに大体の計算ができるところです。496haの間伐をするために必要な費用っていうのはおよそ1億2,400万円でありまして、他方で1万t-CO₂の吸収を抑えるというか、排出を削減するために、例えば火力発電所から太陽光発電所、再生可能エネルギーに置き換えるとする、1,588万kWh、この部分を火力発電所から太陽光発電所に置き換えないといけないうことになってまいります。そのために要する費用っていうのが5億3,000万円というふうに推計されるのでありまして、同じ1万t-CO₂を削減するための費用対効果という点でいけば森林整備を手段とした方が約3.5倍の効率があるわけなんです。

そういうことを考えましても地球温暖化対策を進めていくに当たって、地球温暖化対策税の使途にぜひこの森林整備、森林吸収源対策、これを入れていくということが、新しい増税の使途として国民の理解を得られるというものではないのかと、そのように考えております。

各省間で意見の違いもありますでしょうし、地域によってまた考えもあつたりするのではないかとはいわれますけれども、われわれとしましてはこの件を強く今後訴えていきたいと思っております、この7月に行われます全国知事会でも、こういう問題提起もぜひさせていただきたいと考えておるのですが、まずは本県と愛媛県で共同歩調を取らせていただければと、そのように考えておるところです。

(中村愛媛県知事)

この地球温暖化対策税、改正法が成立して非常に喜ばしいことだと思いますけれども、ご指摘があったように森林吸収源対策の目的が削除されているというか、載っていないと。これは大問題だと。大きなテーマになっているにもかかわらず目的から外されているっていうのは、これはもう考え方が間違っているのではないかというのが個人的な思いでありますから、これの財源確保ということについては全く異議を有するものではなく、同一の歩調をとりたいと思っています。ましてや高知県も愛媛県も広大な森林面積を抱えている森林県でありますから、むしろわれわれが率先してメッセージを送る立場にあるのではないかなど。非常に分かりやすい表まで作っていただいて、これは森林面積の少ない知事さんを説得するには非常にいいのではないかと思いますので、ぜひ共同で推し進めていきたいと思っております。

(尾崎高知県知事)

よろしく申し上げます。

【PR】

(尾崎高知県知事)

それでは、どうもありがとうございます。時間ももう残り少なくなりましたが、両県のそれぞれのPRをお願いをしたいと思います。さまざまなイベントにつきまして、愛媛県からPRをしていただければと思います。

(中村愛媛県知事)

私の方から2つ。

今日の話と重複して一部触れさせていただきましたけれども、今年の3月に宇和島市まで高速道路の延伸が完了いたしました。松山から宇和島まで1時間少々で到着するようになりましたので、もう決して南予が遠いとは言わせないということになったのではなかろうかと思っています。この開通を受けまして、4月22日から11月4日まで、宇和島圏域というのは宇和島市、愛南町、鬼北町、松野町と、高知県と隣接する場所が多いわけでありまして、こちらで「えひめ南予いやし博2012」というイベントを6カ月間にわたって開催しています。お金をかけて何か大きな物を作ってというのではなくて、あるがままの自然を生かし、その人情というものを魅力にした手づくりイベントの集大成であります。ですから中身も、参加・交流・体験型のイベントメニューが並んでおりまして、こうしたことを受けて南予への集客、そしてその先には四万十経由、高知への人の流れというのもでき上がっていくのではなかろうかと期待しているところであります。

こうした社会が混乱している時代、人々も非常に疲れているというようなこともよく言われています。まさにこの西南地域はありのままの自然、そしてその自然に育まれる恵みも豊富なところで、疲れた人を癒す空間だと、ブータンにも負けない癒やしの要素を持っているのが西南地域というようなことで、ぜひ高知との事業の連携と、それから愛媛から高知へ、高知から愛媛へ、そのお互いの魅力のちょっとした違いとかを感じ取ることによって、次なる時代へつながっていくことにもなると思いますので、ぜひ足を運んでいただけたらと思います。

それからもう1点は、松山の隣、東温市に「坊っちゃん劇場」という500人収容のミュージカル劇場がございます。ここは毎回四国にゆかりのあるテーマを選んで1年間上演するミュージカル劇場で、3年前には「龍馬！」も上演させていただきました。ルーツは秋田県の田沢湖にある「わらび座」との連携によって成り立っていますから、プロフェッショナルな作品であります。今、年間大体8万人から9万人ご来場いただいています。今年のテーマは「幕末ガール」ということで。これはやはり南予地域なんですけど、その昔、宇和島藩が、高野長英とか村田蔵六、ああいう人材を呼んで当時の最新鋭の知識を学んだ歴史もあるんですけども、少し北に西予市というところがあって、ここに二宮敬作という方がいらっしゃいました。同じ時代です。この方は長崎に渡って蘭学を学んだ。シーボルトの弟子だったんですね。そのシーボルトと日本人の女性の間にも生まれたのがお伊ネ、いわゆる「オランダお伊ネ」なんです。この二宮敬作がシーボルトの一番弟子で、八幡浜の方に帰ってきたときに、蘭学を自分の手元で学ばせるために伊ネも連れて帰ってきています。「オランダお伊ネ」は、実はそのときに愛媛県に何年もいた歴史がありまして。彼女はそこで学んで、さらに長崎に渡り、東京に渡り、日本で最初の女医になっていくんです。そのお伊ネの人生を描いたミュージカル。「幕末ガール」という演目で1年間上演をいたしますので、ぜひお越しいただけたらと思います。この前観てきたんですが、すごく面白かったので、ぜひ。

(尾崎高知県知事)

坊っちゃん劇場、毎年素晴らしいですね。

(中村愛媛県知事)

最高にいい作品、作っておりますね。

(尾崎高知県知事)

素晴らしいです。楽しみにしています。

最後に、高知県であります。

先ほど来申し上げますが、「リョーマの休日」キャンペーンってやってるんですが、中でも龍馬パスポートというのが割とご好評をいただいておりますのでございまして、いろんな施設を回っていただくとそこそこで1点ずつスタンプをついてもらえる。そして、だんだんスタンプの数が増えていくとパスポートが青から赤、赤から黒というふうにはバージョンアップをするようになってまして、さらに最上級の黒パスポートも5段階のランクアップシステムを持っているところです。4月1日から募集し始めまして既に3,000人以上応募していただいております。大変好評なんです。何と言っても、これによっていろんな県内の230施設で特典が受けられるんですね。パスポートが上級になるとより大きな特典が得られるようになって、さらに商品が当たる。

それと、もう1つ、高知県の観光情報。パスポートを登録していただいた方にはいろいろメールとかで送ることになってるんです。そういう高知の魅力満載のパスポートであります。ぜひこの龍馬パスポートっていう取り組みを進めたりしてますので、愛媛県の皆さんにもぜひ参加をいただければなと思います。

(中村愛媛県知事)

これ、面白いですね。

(尾崎高知県知事)

ランクアップするの、結構競争になったりしてるらしくて面白いんですけどね。

(中村愛媛県知事)

民間の施設も公共施設も一緒にタイアップして。

(尾崎高知県知事)

そうですね。入っていただいて、やっていただけてるんですけど。真ん中のこれが参加をいただいている施設で、例えば先ほどの「海洋堂ホビー館四万十」さんなんかも参加をいただいています。ホテルさんなんかもそうですね。

それではどうもありがとうございました。

4 閉会挨拶

(司会)

ありがとうございました。あっという間に終了予定時間が過ぎてしまいました。

本日意見交換をしていただきました事項のうち、対応が必要な案件につきましては、両県で再び知恵を出し合い積極的に取り組んでまいりたい、そのように考えております。

それでは、閉会に当たりまして愛媛県知事からご挨拶をいただきたいと存じます。よろしく願いいたします。

(中村愛媛県知事)

今日は、尾崎知事におかれましては、開催に当たりましていろいろとご配慮をいただき、本当に限られた時間の中で素晴らしい、印象に残るようなコースを組んでいただいたこと、そしてまた本会議に当たりましては、高知県庁の皆さんはじめ、大変準備にも汗をかかれたと思いますけども、本当にどうもありがとうございました。

1時間という短時間でありましたけれど、普段から歳も、私の方がちょっと歳くっちゃってますけども、世代も近いということで、知事会でも隣同士ということで、いろんな話し合いをすることも多いんですが、今日はそういった延長線上で、短時間ではありますけども、お聞きいただいたとおり、たたき台はほとんどなく非常に実のある議論、意見交換ができたのではなかろうかというふ

うに思います。

とりわけ今日は、これから道路の開通等々、尾崎知事からもお話がありましたように、ぐっと交流のアクセスが整ってきたことによって、今まで以上に連携が深まっていく可能性、というよりも確信を持っています。そういう中で、高知スタイルの愛媛とはまた違った魅力を体感できたことは、自分にとっても大変大きな経験になったと思います。また、それぞれの市町単位でも積極的に意見交換が進んでいるようでありますから、県という立場でもそうした基礎自治体の交流を後押しし、時には引っ張り、お互いの持ち味を出しながら西南地域の活性化、ひいては高知県・愛媛県の両県の発展に向けて力を合わせていけたらと思います。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げまして、お礼の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

5 閉会

(司会)

ありがとうございました。

以上をもちまして平成24年度の愛媛・高知交流会議を終了いたします。

皆さま、本当にありがとうございました。